



## Survivable Remote Site Telephony の設定

Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先を追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「SRST 参照先の設定値」(P.16-1)
- 「関連項目」(P.16-3)

### SRST 参照先の設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[システム(System)] > [SRST] メニューパスを使用して、SRST 参照先を設定します。

Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先は、デバイス用の他のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバが到達不能になった場合に、限定された Cisco Unified Communications Manager 機能を提供するゲートウェイを構成します。SRST 参照先は通常、デバイスプールに割り当てられており、Cisco Unified Communications Manager が到達不能になった場合に、発信側のデバイスがコールを実行しようとして検索するゲートウェイを決定します。SRST 参照先の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「SRST 参照先」を参照してください。

#### SRST 参照先の削除のヒント

デバイス プールなどの項目が使用している SRST 参照先は削除できません。SRST 参照先を使用しているデバイス プールを検索するには、[SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中の SRST 参照先を削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されている SRST 参照先を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する SRST 参照先を使用しているデバイス プールすべてに、別の SRST 参照先を割り当てます。「デバイス プールの設定値」(P.8-1) を参照してください。
- 削除する SRST 参照先を使用しているデバイス プールを削除します。「デバイス プールの設定値」(P.8-1) を参照してください。



#### 注意

SRST 参照先を削除するときは、削除する SRST 参照先が正しいか慎重に確認してください。削除した SRST 参照先を元に戻すことはできません。誤って削除した場合は、その SRST 参照先を作成し直す必要があります。

## GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

## 設定値表

表 16-1 では、SRST 参照先の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.16-3) を参照してください。

表 16-1 SRST 参照先の設定値

フィールド	説明
[名前(Name)]	名前を [名前(Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。SRST 参照先名はそれぞれ固有の名前にしてください。 <b>(注)</b> SRST 参照先には、内容を表す簡潔な名前を使用してください。
[ポート(Port)]	この SRST 参照先のポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。 <b>(注)</b> この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合だけにしてください。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。
[IP アドレス (IP Address)]	デバイス プール内のデバイス用に、SRST 参照先として使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。
[SIP ネットワーク /IP アドレス (SIP Network/IP Address)]	SIP を実行している電話機が SRST モード時に使用するサーバの IP アドレスを入力します。 <b>ヒント</b> SIP デバイスが SRST 対応ゲートウェイにフォールバックできるようにするには、[SIP ネットワーク /IP アドレス (SIP Network/IP Address)] フィールドと [SIP ポート (SIP Port)] フィールドを設定する必要があります。
[SIP ポート (SIP Port)]	SRST ゲートウェイの SIP ポートを入力します。デフォルト値は 5060 です。
[セキュア SRST(Is SRST Secure?)]	SRST が使用可能になっているゲートウェイに、自己署名証明書が含まれていることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。 SRST を設定し、ゲートウェイと制御されている電話機をリセットした後、Cisco CTL Provider サービスは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスから認証されます。Cisco CTL クライアントは、SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得し、Cisco Unified Communications Manager データベースに保存します。 <b>ヒント</b> SRST の証明書をデータベースと電話機から削除するには、このチェックボックスをオフにして [保存(Save)] をクリックし、制御されている電話機をリセットします。

表 16-1 SRST 参照先の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SRST 証明書プロバイダポート (SRST Certificate Provider Port)]	<p>このポートでは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスに対する要求を監視します。Cisco Unified Communications Manager は、このポートを使用して SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得します。Cisco SRST Certificate Provider のデフォルトのポート番号は 2445 です。</p> <p>SRST が使用可能になっているゲートウェイでこのポートを設定した後、このフィールドにポート番号を入力します。</p> <p><b>ヒント</b> このポートが現在使用されている場合、またはファイアウォールを使用していてそのファイアウォール内でこのポートを使用できない場合は、別のポート番号の設定が必要になる場合があります。</p>
[証明書の更新 (Update Certificate)]	<p> <b>ヒント</b> このボタンが表示されるのは、[セキュア SRST (Is SRST Secure?)] チェックボックスをオンにして [保存 (Save)] をクリックした後だけです。</p> <p>このボタンをクリックすると、Cisco Unified Communications Manager データベースに保存されている既存の SRST ゲートウェイの証明書が、Cisco CTL クライアントによって置き換えられます (証明書がデータベースに存在する場合)。制御されている電話機をリセットした後、TFTP サーバによって <code>cnf.xml</code> ファイルが (SRST が使用可能になっているゲートウェイの新しい証明書とともに) 電話機に送信されます。</p>

**追加情報**

「関連項目」(P.16-3) を参照してください。

**関連項目**

- 「Survivable Remote Site Telephony の設定」(P.16-1)
- 「SRST 参照先の設定値」(P.16-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「SRST 参照先」

